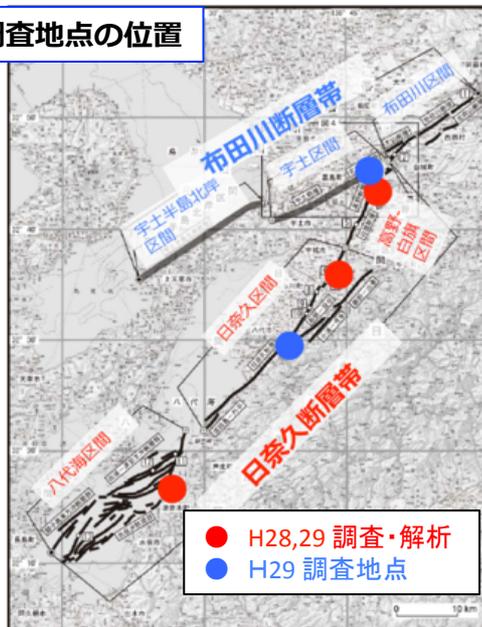


2016年熊本地震と日奈久断層帯の古地震履歴 宮下由香里（産業技術総合研究所）

熊本地震を引き起こした布田川断層帯と日奈久断層帯の調査を行い、未破壊区間の過去の地震履歴を解明した。

- 2年間で、陸域5地点、海域1地点において古地震調査を実施。
 - 日奈久断層帯は、海陸いずれにおいても、既存評価より高頻度で地震を起こしてきたことが判明。
 - 適切な調査地（時間分解能が良い地層が堆積していることが必須）を選定し、トレンチ壁面で観察された断層の位置づけ（ひとつに集中した断層なのか、分岐した断層のひとつなのか等）を検討することが重要。
 - 報告書は地震本部ホームページ上で公開。
 - 結果は国の活断層評価に使われる予定。
- トレンチ調査では、一般公開や地元小中学生の授業を行い、広く成果普及・意識啓発。

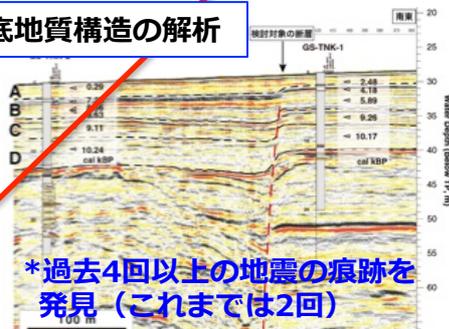
調査地点の位置



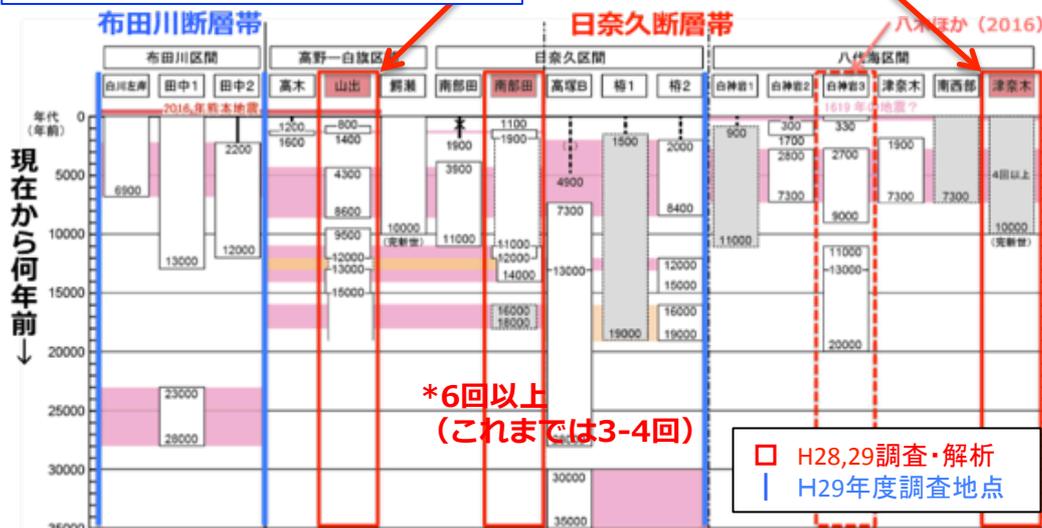
山出トレンチ北壁面の写真



海底地質構造の解析



断層帯の新しい活動履歴情報の取得



- ・従来考えられていたよりも、高頻度で地震を起こしてきた。
- ・活動間隔は、1~8千年、平均すると2~3千年程度。